闘いなくして安全なし

2026.07.01
No. 549

〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
https://dorocshien.stars.ne.jp/
info@doro-shien.site

組織、人事・賃金制度改悪―乗務手当廃止反対！　強制配転するな！　融合化、ワンマン化反対！　ローカル線切り捨てやめろ！

「組織再編」実施の強行反対

組織再編（7/1）、人事・賃金制度改悪（4/1）の撤回を

7月1日、ＪＲ東日本は12の本部・支社を36の「事業本部」に再編する組織再編を強行しました。その狙いは、「再編の主眼は、現業と非現業の融合」（6月26日付け神奈川新聞）と報じられている通りです。鉄道業務をないがしろにし、労働者の権利を根本から破壊しようという攻撃です。

鉄道現業をないがしろにするな

この間、ＪＲ東は統括センター化、運転士・車掌・駅業務の兼務発令、行路内への「その他時間」設定などを進めてきました。乗務員の仕事を「片手間」扱いして軽んじてきた挙句、4月1日の人事・賃金制度改悪では乗務手当の廃止まで強行しました。

2026/4/1　京葉車両センター前

いったい乗務員のことを何だと思っているのか！　絶対に許せません。

さらに来春からは中央・総武緩行線、京浜東北・根岸線のワンマン化も強行しようとしています。津田沼の乗務員区の車掌の仲間には異動が強制され、運転士にはすべての責任と負担が押し付けられます。

すでに乗務員から降りてしまう仲間、退職してしまった仲間もでています。

乗務員は毎日多くの乗客を乗せ、列車の安全と運行を守っています。早朝・深夜にわたる不規則な勤務の中で、一つ間違えば重大事故につながりかねない緊張が強いられています。

鉄道業務のもっとも中心をなす職種が乗務員です。乗務員への仕打ちは、会社がどこまで鉄道業務を軽視しているかを示しています。

会社は職場からの声を恐れている

しかし、どんなに会社が鉄道業務とそこで働く仲間を軽視しようと、日々列車を運行し、安全を守っているのは現場です。現場からの声と団結した闘い、闘う労働組合の力こそ、会社施策を打ち破る力です。

会社施策は決して「万全」ではありません。攻撃の矛盾は、止まらない重大事故と相次ぐ不祥事で明らかになっています。この中で、職場から団結した闘いが起こることを会社は何よりも恐れています。

職場に必要なのは闘う労働組合です。動労千葉とともに、組織再編、人事・賃金制度改悪―乗務手当廃止に「反対」の声をあげよう。